

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	(有) 歩未
事業所名	グループホームあゆみ
所在地	松山市北久米町933番地1
自己評価作成日	平成27年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を田んぼや畑に囲まれ、国道沿いではあるが、静かな環境のもと、ゆったりと生活できている。畑で野菜を作ったり、収穫したり皆さんが楽しみに参加出来ている。又地域の方との交流も夏祭りやクリスマス会を通じて、顔なじみもできてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道近くにあり、田畑の残る自然豊かな景色が広がる中で、作物の収穫の様子や田植え風景は利用者には懐かしく、会話のきっかけや和みとなっている。温かな地域性にも恵まれ、地道な活動の継続により、近隣の高校等との相互協力関係が構築されている。看護師である代表者を中心に協力医療機関とのパイプを基に連携を密にし、日々の健康管理のもと事業所での安心した生活へつなげている。職員は介護する立場以前に人として信頼されるべきという強い信念を持ち、利用者や家族等の気持ちに寄り添える関係づくりを大切にすることができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あゆみ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 高須賀 幸子

評価完了日 平成27年5月25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) H25年に職員皆で新しく作った理念を実践している。 ①ありのままを尊重し思いやりをもってともにあゆむ ②利用者の暮らしと地域との交流 ③安心できる毎日 職員の入れ替わりがあり、新人職員の実践に力を入れたい。</p> <p>(外部評価) 平成25年度に理念を全職員で再考し、地域密着型サービスの意義を踏まえ自分達の目指すサービスの礎として、より身近な言葉で新しい理念を掲げたが、理念作成後に職員の入れ替わりがあったため、理念を正しく共有し実践へつなげるまでには至っていない。全職員が、同じ方向を向いて実践につなげていくことに重要性を感じており、現在は新人職員の育成に力を入れているのが現状である。</p>	誰にでも分かりやすい言葉で理念を再考し、自分達の目指すサービスへの思いが盛り込まれた内容となっている。今後は勉強会や話し合い等の時間を設け、全職員が理念を把握し、実践へつなげる取組みを行ってほしい。職員が理念への理解をより深め、同じ目標を共有することをきっかけに、やりがいが大きくなり、職員のスキルアップへつながることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には入居者さんと出かけたり、また、ホームの行事(夏祭り・クリスマス会)などには来ていただくなどしており、年々顔見知りの方もでき、互いに声を掛けあえる関係が出来てきている。</p> <p>(外部評価) 開設以降、地域行事への参加や声かけを地道に行い、地域住民へ向けての勉強会等地域に貢献できる取組みに積極的に参加してきた積み重ねが、現在の地域との良好な関係につながる基盤となっている。事業所行事や実習の受け入れ等をきっかけに、地域住民やボランティアの参加と温かい支援が得られており協力体制が構築できている。日常的にも困りごと等があれば気軽に立ち寄れる状態であり、地域に開かれた運営ができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の小中学校の職場見学や職場実習の受け入れをしたり、城南高校の実習も受け入れている。又行事の時にはボランティアとして、お手伝いもして頂きながら、認知症の理解をして頂いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加いただいている町内会の方々や民生委員の方々から、地域の状況など教えて頂いたり、防災士の方からは、訓練へのアドバイスを頂き、参考にしている。</p> <p>(外部評価) 町内会、民生委員、いきいきサロン等地域住民をはじめ市役所、市社協、地域包括支援センターからの参加を得て2か月毎の開催ができています。家族等には会議内容をお便り等で発信したり、家族会で話し合う機会を設け、職員には議事録の閲覧で内容を共有している。現状報告をはじめ地域防災や行事等の地域情報交換が行われ、積極的な意見交換ができており、日々の運営に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課・生活福祉課・高齢福祉課など、必要に応じ相談、アドバイスを頂くようにしている</p> <p>(外部評価) 市担当者とは良好な関係にあり、わからないこと等は積極的に相談したり、実情を伝え助言を得ている。特に地域包括支援センターとは気軽な関係が築けており、相互に協力し合っている。介護相談員の受け入れがあり、毎月の訪問により利用者とは顔馴染みの関係になりつつある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関は常に開錠しており、出入りはチャイムで確認できる。また、主治医の指示があり、必要な場合には、ご家族にも説明し、同意を得るようにしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしない方針を持っているが、主治医の指示や安全優先のため、やむを得ない場合は家族に理解を求め、同意を得ている。経験の浅い職員をはじめ全職員が正しく理解できるよう勉強会の機会を設けている。声かけなどの対応には職員により差があると管理者は感じており、気になる時にはその都度尊厳を重視した対応について正しく理解できるよう声かけをし、指導している。日中玄関はセンサーを活用し、施錠していない。職員の見守りで対応し、誰もが自由に行き来できている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的にも学ぶ機会を持ち、勉強をする事で再度、自分自身に問いかけることが出来ていると思う。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 勉強会も実施しているが、対象者がまだいないため、具体的な事は理解がむづかしい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 一つの項目ごとに説明しながら契約締結している。改定の際には、ホームへ来ていただき、説明したうえで同意を頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を年2回実施し、ご意見ご要望を伺うようにしている。その時には事前にアンケートも行い、結果報告や、結果に対しての意見も伺うようにしている。昨年より、相談員の受け入れもしており、入居者さんからのご意見は、そちらからの報告が来るようになっている	
			(外部評価) 家族等とは日頃連絡を小まめに取り、利用者の生活の様子をお便りとして届け、現状を伝える工夫をしている。また運営状況や推進会議の内容等は家族会でも報告し、内容を共有している。面会の機会を活用して要望を伺うほか、家族会ではアンケートを実施し、日頃言いにくい思いや要望が表せる貴重な機会としている。現在までに大きな苦情等は聞かれてはいないが、意見に対しては迅速な対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会議で要望などは聞いている。すぐに実践できることはしてくれている。 (外部評価) 毎月の職員会議や年2回の職務評価の機会では職員同士で意見交換を行ったり、個人目標等の思いを聞く機会が設けられている。代表者や管理者と職員間の関係が気軽であり、日々の業務の中でその都度意見や要望が出ており、素早い対応ができています。職員それぞれの生活に応じ、休日等の希望等へは柔軟な対応ができており、職員が長く愛着をもって勤務できる就業環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回職務評価を行い、其々の能力等の確認をし、評価している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修への参加を呼びかけ、希望の研修が受けられるようなシフト組みや、費用負担などしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターでのグループホーム交流会に参加する程度で、機会は少ない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 介護士以前に、まずは人として信頼されていただけないと思います。日頃の行いそのものが、人としての評価につながると考え、ご本人の訴えに傾聴しながら、お互いの関係を持ち続けるように日々努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学の時から、ご本人の状態など、可能な範囲でお聞きし、施設での生活に不安のないよう、お答えするように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族からの聞き取りや、センターシートの記入などにより、ご本人の状態、希望などから必要な支援をみつけだすようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの意向を考え生活していく上で、それに沿った生活を実行するよう心がけているが、すべてうまくはいかないながらも、入居者さんと職員間で少しずつ歩み寄っていく姿勢もっています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人に支障のない程度にご家族の話をしています。また、職員とご家族さんの間での会話などもお話しし、笑顔を引き出しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者さん一人一人の生活歴を良く知り、会話の中から出てくる場所、人に関心を持ち、施設での生活の場面にも共通する話題を取り入れるように支援している。 (外部評価) 利用開始前に詳細に生活歴等の情報を利用者や家族等から聞き取っている。何よりも毎日の生活の中での会話を大切にしており、知り得た情報は職員間で共有している。知人や友人の訪問も多く、家族の協力を得て馴染みの場へ出掛ける支援に努めている。いきいきサロンや地域行事等への参加機会も多く、利用者の気持ちを大切に交流が持てるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人と人とが円満に関わる支援が一番むつかしいですが、職員がみんなで助け合いながら上手に支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後も、オムツを包むための新聞を届けてくれるご家族もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者様と沢山話し、関わり、性格などを把握し職員間で情報交換し対応しています。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者それぞれの思いを把握できるよう会話を大切にしている。思いを把握することが困難な状況にあっても、利用者が自己決定しやすい会話の工夫を図ったり、家族等から情報を得たり、職員間で情報を共有しながら本人が納得できる支援に努めている。把握した情報は利用者にとって生きてきた歴史であり、定期的に更新することでより具体的なケアへと活かすことができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を取り入れ、ご家族に書いていただき、参考にしている。ご家族の情報になく、新たな情報があれば、ご家族にも確認したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々記されているケース記録での一人一人の心身の状態情報交換、毎日の申し送りにて把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>職員それぞれに、担当の入居者さんを持ち、日々、身体状況、精神状況など観察し、ケア会議で他の職員の意見も聞きながら介護計画に繋げている</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者担当制を導入しており、担当者を中心に利用者や家族等からの意向を踏まえ、担当者会議において職員間で話し合い現状に即した介護計画を作成している。生活課題への取り組み状況は日々詳細に実施記録として残しており、根拠のある効率的なモニタリングを毎月行うことができている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子を観察しながら、申し送り時などに職員間で情報交換を行い、その情報を共有して介護に繋げている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の状況の変化で、今までご家族が行っていた支援を代わって行ったりしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>いきいきサロンの方々との交流や町内会の行事に参加したりして、地域の方々と接する機会があり、顔なじみの関係が出来てきている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 普段の体調管理は、ホームの協力医が月2回往診に来ていただいております。その他、定期的な受診が必要な方は、ご家族対応で行っている。急な発熱などは、ホーム職員が協力医まで、受診介助している。他科受診も職員が行っている。</p> <p>(外部評価) 多くの利用者が協力医をかかりつけ医として受診している。月2回の定期的な往診のほか、看護師が配置されているため、日々の健康管理や緊急時の医療連携がスムーズに行われている。利用者がかかりつけとしていた医療機関での受診も家族の協力を得ながらの支援ができています。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 入居者さんの健康面の変化については、ホームの看護師に報告し、指示をもらう体制ができています。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院の際には、普段の生活状況が良くわかるようにホーム独自の情報提供書を作成し渡している。また、面会にも行き、状況確認したり、看護師さんに様子を伺う機会を持つようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時から、看取りについての説明を行い、状態の変化によって、必要になれば、主治医を交え、話し合う体制で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 終末期ケアの実績があり、入居時から事業所としてできること、できないことについて利用者や家族等に説明している。利用者の状態に応じてその都度利用者や家族等から思いや意向を伺うとともに、協力医療機関を交えての話し合いの機会を設けて個々の希望に沿った終末期を迎えられるよう検討している。終末期を支える職員の技術面での不安等への配慮のため、看取り開始前後には話し合いの機会を設けている。それぞれの職員の思いを大切に、不安を軽減しながら看取り介護につながる取り組みができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDの使用方法や心臓マッサージなど定期的に訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回 訓練を行っており、2年に一度ある地域の合同防災訓練にも職員・入居者で参加し、起震車体験や缶詰めの缶で炊飯する体験、炊き出しなどで地域の方と訓練している。 (外部評価) 消防署やセキュリティ管理会社の立会いで年2回の防災訓練を実施し具体的な専門的アドバイスを受けるとともに、自主防災訓練も実施している。立地等の面から注意すべき事項について、運営推進会議で地域住民と意見交換を行い、地域の防災訓練へ利用者とともに参加し、地域との協力体制を築いている。利用者の居室入口には全室防災ヘルメットを設置している。また、災害等緊急時の備蓄品として飲料水や食料、毛布等生活用品の備えがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人に合わせた言葉使いをするように、職員全員で心掛けている (外部評価) 代表者や管理者は、利用者個々の人格や健康状態に応じた優しさのある声かけを大切にしたいという思いで指導している。個人情報等についても慎重に扱われており、書類の管理についても適切に行われている。職員の声かけは利用者の思いを汲んでおり聞き取りやすく、羞恥心や不快な思いが避けられるような配慮が感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員の押し付けではなく、其々が、自宅で生活しているように、自己決定が出来る様な選択肢を用意して、声掛けを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間、食事の時間、したいことなども、一人一人の状態や希望にあわせられるように努めて支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2か月に一度 訪問理美容師さんが来てくれ、皆さんの散髪をして頂いています。毎日の洗面の際、ブラシをお渡しして、梳かして頂いています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を作る事は、今の入居者さんの中では難しいが、下膳や食器洗いはして頂いている。食事もできる限り、一緒にするように心がけているが、介助の必要な方もいるため、全員と一緒に食べる事は難しい。 (外部評価) 調理師資格を持つ専属の職員が平日の食事づくりを担当しており、利用者の希望を取り入れるため、アンケートを実施したり、誕生日にはリクエストに応じたメニューや手づくりのケーキでお祝いするなど、食事の時間が楽しみになるような工夫がみられる。利用者と職員が同じメニューで食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでおり、下膳や片付けのできる利用者を職員が、温かく見守っている光景があった。利用者の健康状態に応じて声かけや配置の工夫がされており、飲み込みが困難な利用者には、献立の工夫をしたり食べにくいものは形態を変えたりと柔軟な対応ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・排泄・水分など、1日分を記録できる様式がありそれに毎日記録し、把握している。水分など、少ない時には好みの飲み物で対応したりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) できる限り自分で口腔ケアをして頂き、汚れが残っている時には介助したりしている。また、身体状況的に自分で出来ない方は、口腔ケアウェットで拭き取っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを記録しており、それを基にトイレ誘導、オムツ交換をしている。	
			(外部評価) 食事や排泄、水分補給等健康面に配慮をしながら、記録により排泄パターンを掴み、利用者個々のリズムに応じることができている。おむつを使用する利用者には適切な介護用品の選択を検討している。利用者の身体機能の維持やできることを奪わないケアを念頭に、トイレでの自然排泄を大切にした自立支援への取組みができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄のチェック表を活用し、毎日の排便状態を確認し、その人に合った下剤を使用したり、食事面では根菜類を使った副菜を召し上がっていただいたりしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ある程度は入浴日や時間の設定はしているが、ご本人の体調や汚染状況などに合わせていつでも入浴が出来る様に支援している。	
			(外部評価) ユニットごとに個別浴槽があり、1階には特浴を設置し、健康状態に応じて利用することができる。週3回の入浴を基本とし、利用者の希望や状態に応じて柔軟な対応ができており、清潔保持に努めている。入浴が苦手な利用者には無理強いすることなく、入浴日を変更したり声かけの方法や誘い方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の睡眠状態や、その日の体調に合わせて、午睡の時間をとったり、休むように声掛けしたりしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 夜間の睡眠状態や、その日の体調に合わせ、午睡の時間をとったり、休むように声掛けしたりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑仕事、計算プリント、洗濯物干しなど、其々の得意なこと、できる事を役割として行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日希望を聞いてとはいきませんが、散歩に出掛けたり、日光浴・外気浴など、身体・精神状況にあわせて行っています。また、元気な方は、車で外出することもあります。 (外部評価) 家族や地域住民等の協力を得て花見等の行事を行ってきているが、利用者の高齢化に伴い、全体での外出行事は困難になりつつあるので、利用者の思いに沿った外出を小規模で対応する等の支援を試みている。また、日常は気分転換に広々とした事業所敷地内や中庭での散歩等を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持っている方は必要に応じて買い物に行っています。ご家族に確認をして、洋服なども買いに行く事もあります。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をされる際には、ゆっくりと話が出来る様に支援しています。手紙はスタッフが責任を持って預り、投函しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングではテレビを観たり、会話をしたりして、心地よく過ごせるように、温度・湿度の調整にも気を付けています。また、クラフトなどで季節感を感じられる作品を作り、飾っております。</p> <p>(外部評価) 事業所の建物は築10年近く経過しているが、職員が建物の隅々まで丁寧に清掃を行うと同時に、定期的なメンテナンスも行われ、清潔に管理している様子が伺える。共用部には、通行や緊急時の妨げになる不要物はなく、安全面への配慮がみられる。また、壁には利用者の作成したクラフト作品を掲示する等温かみのある共用空間となっており、近隣の田畑の眺めと相まって利用者には懐かしく和みの空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) レベルによってできる事とできないことが違うため、一人一人に合わせて、グループで過ごせる支援をしたり、個別で過ごす支援を考えたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご家族の写真や、お孫さんからの手紙や絵などが、いつでも目に入るよう配慮しております。居室で読み書きされる方には、畳を敷き、テーブルを用意し、少しでも居心地良く過ごして頂けるよう気を付けております。</p> <p>(外部評価) エアコン、緊急呼び出し装置、電動ベッド、ロッカー、チェスト等が整備されており、日常過ごすには不自由さは感じない。利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう馴染みのものや愛着あるものの持ち込みを勧めたり、仏壇や家族写真等を利用者がそれぞれ自由に配置して使用することができている。利用者の健康状態に応じ、畳を敷いたり工夫等安全面に考慮しながらの対応ができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 食器洗いや洗濯物干しなどして下さる方が、安全に作業が出来る様に、配慮しています。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	(有) 歩未
事業所名	グループホームあゆみ
所在地	松山市北久米町933番地1
自己評価作成日	平成27年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を田んぼや畑に囲まれ、国道沿いではあるが、静かな環境のもと、ゆったりと生活できている。畑で野菜を作ったり、収穫したり皆さんが楽しみに参加出来ている。又地域の方との交流も夏祭りやクリスマス会を通じて、顔なじみもできてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道近くであり、田畑の残る自然豊かな景色が広がる中で、作物の収穫の様子や田植え風景は利用者には懐かしく、会話のきっかけや和みとなっている。温かな地域性にも恵まれ、地道な活動の継続により、近隣の高校等との相互協力関係が構築されている。看護師である代表者を中心に協力医療機関とのパイプを基に連携を密にし、日々の健康管理のもと事業所での安心した生活へつなげている。職員は介護する立場以前に人として信頼されるべきという強い信念を持ち、利用者や家族等の気持ちに寄り添える関係づくりを大切にすることができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あゆみ

(ユニット名) 2階

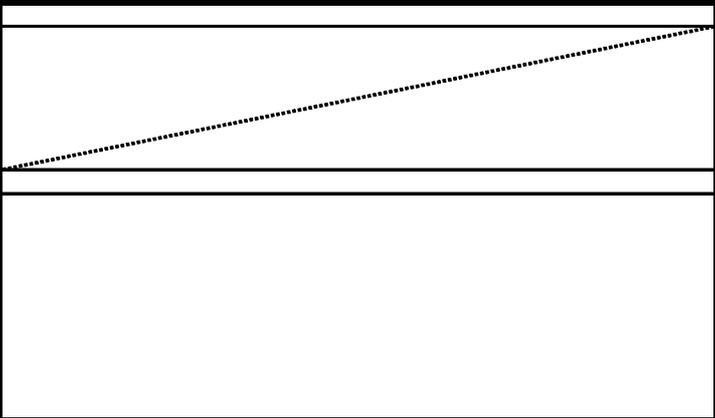
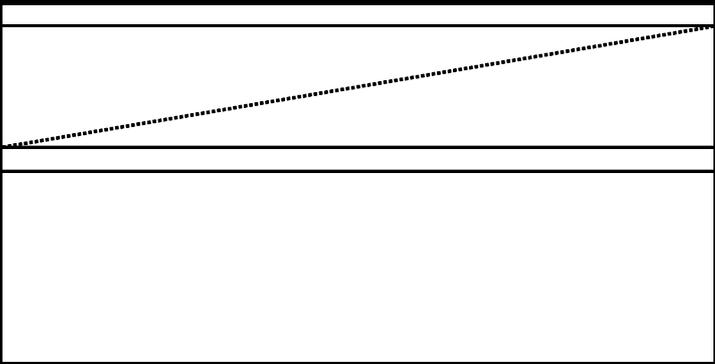
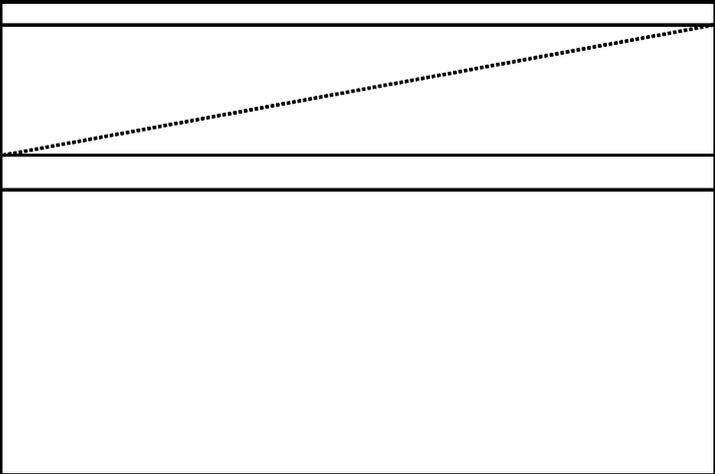
記入者(管理者)
氏名 高須賀 幸子

評価完了日 平成27年5月25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) H25年に職員皆で新しく作った理念を実践している。 ①ありのままを尊重し思いやりをもってともにあゆむ ②利用者の暮らしと地域との交流 ③安心できる毎日 職員の入れ替わりがあり、新人職員の実践に力を入れたい。</p> <p>(外部評価) 平成25年度に理念を全職員で再考し、地域密着型サービスの意義を踏まえ自分達の目指すサービスの礎として、より身近な言葉で新しい理念を掲げたが、理念作成後に職員の入れ替わりがあったため、理念を正しく共有し実践へつなげるまでには至っていない。全職員が、同じ方向を向いて実践につなげていくことに重要性を感じており、現在は新人職員の育成に力を入れているのが現状である。</p>	誰にでも分かりやすい言葉で理念を再考し、自分達の目指すサービスへの思いが盛り込まれた内容となっている。今後は勉強会や話し合い等の時間を設け、全職員が理念を把握し、実践へつなげる取組みを行ってほしい。職員が理念への理解をより深め、同じ目標を共有することをきっかけに、やりがいが大きくなり、職員のスキルアップへつながることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所ではゴミは事業所ゴミで出しており、地域のごみ置き場は利用していないが、掃除は、定期的に行わせていただいている。</p> <p>(外部評価) 開設以降、地域行事への参加や声かけを地道に行い、地域住民へ向けての勉強会等地域に貢献できる取組みに積極的に参加してきた積み重ねが、現在の地域との良好な関係につながる基盤となっている。事業所行事や実習の受け入れ等をきっかけに、地域住民やボランティアの参加と温かい支援が得られており協力体制が構築できている。日常的にも困りごと等があれば気軽に立ち寄れる状態であり、地域に開かれた運営ができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の小中学校の職場見学や職場実習の受け入れをしたり、城南高校の実習も受け入れている。又行事の時にはボランティアとして、お手伝いもして頂きながら、認知症の理解をして頂いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で話し合われた内容を職員会議で報告を受け、話し合い、意識やケアの向上を図っている。</p> <p>(外部評価) 町内会、民生委員、いきいきサロン等地域住民をはじめ市役所、市社協、地域包括支援センターからの参加を得て2か月毎の開催ができています。家族等には会議内容をお便り等で発信したり、家族会で話し合う機会を設け、職員には議事録の閲覧で内容を共有している。現状報告をはじめ地域防災や行事等の地域情報交換が行われ、積極的な意見交換ができており、日々の運営に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課・生活福祉課・高齢福祉課などへ必要な連絡・相談・支援をして頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは良好な関係にあり、わからないこと等は積極的に相談したり、実情を伝え助言を得ている。特に地域包括支援センターとは気軽な関係が築けており、相互に協力し合っている。介護相談員の受け入れがあり、毎月の訪問により利用者とは顔馴染みの関係になりつつある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束のないケアを行っている。出入り口は施錠せず、センサーで出入りの確認を行っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしない方針を持っているが、主治医の指示や安全優先のため、やむを得ない場合は家族に理解を求め、同意を得ている。経験の浅い職員をはじめ全職員が正しく理解できるよう勉強会の機会を設けている。声かけなどの対応には職員により差があると管理者は感じており、気になる時にはその都度尊厳を重視した対応について正しく理解できるよう声かけをし、指導している。日中玄関はセンサーを活用し、施錠していない。職員の見守りで対応し、誰もが自由に行き来できている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会議後に勉強会があり、虐待についても定期的に勉強をしている。ケアについて互いに注意し合える雰囲気がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 現状で制度を利用している人が居ないため具体的には分かりにくい、定期的に勉強会はしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の書類等は、難しい言葉や専門用語などが出てくるため、ゆっくり、説明しながら行っている。疑問点なども伺いながら、説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に家族会、ご家族へのアンケートを実施し、職員会議で結果報告を受け、今後に生かせるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 家族等とは日頃連絡を小まめに取り、利用者の生活の様子をお便りとして届け、現状を伝える工夫をしている。また運営状況や推進会議の内容等は家族会でも報告し、内容を共有している。面会の機会を活用して要望を伺うほか、家族会ではアンケートを実施し、日頃言いにくい思いや要望が表せる貴重な機会としている。現在までに大きな苦情等は聞かれてはいないが、意見に対しては迅速な対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会議の時に要望や改善してほしいことなどきき反映している。普段から、代表者に直接言える環境なので、その都度言っている。</p> <p>(外部評価) 毎月の職員会議や年2回の職務評価の機会では職員同士で意見交換を行ったり、個人目標等の思いを聞く機会が設けられている。代表者や管理者と職員間の関係が気軽であり、日々の業務の中でその都度意見や要望が出ており、素早い対応ができています。職員それぞれの生活に応じ、休日等の希望等へは柔軟な対応ができており、職員が長く愛着をもって勤務できる就業環境の整備に取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年2回、職務評価を行い、給与などに反映している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部の研修には希望があれば行けるように、シフトの調整や、費用負担もある。研修に行った後は、他の職員に内部勉強会として、フィードバックするようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 包括支援センターでのグループホーム交流会には参加出来るときにはしている。年1回、4か所のグループホームで勉強会をしていたが、この1年はできていない。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 介護士以前に、まずは人として信頼されてなければならないと思います。日頃の行いそのものが、人としての評価につながると考え、ご本人の訴えに傾聴しながら、お互いの関係を持ち続けるように日々努めています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学の時から、ご本人の状態など、可能な範囲でお聞きし、施設での生活に不安のないよう、お答えするように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族からの聞き取りや、センターシートの記入などにより、ご本人の状態、希望などから必要な支援をみつけだすようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの意向を考え生活していく上で、それに沿った生活を実行するよう心がけているが、すべてうまくはいかないながらも、入居者さんと職員間で少しずつ歩み寄っていく姿勢をもっています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた時には、普段の様子をお伝えしたり、会話の中に出てきた内容の確認をさせていただき、情報の共有を図っている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 居室の壁にご家族が面会に来たときの写真などを貼ったり、ご家族が持参した、ご本人の昔の写真などを一緒に見ながら、お話を伺ったりしている。 (外部評価) 利用開始前に詳細に生活歴等の情報を利用者や家族等から聞き取っている。何よりも毎日の生活の中での会話を大切にしており、知り得た情報は職員間で共有している。知人や友人の訪問も多く、家族の協力を得て馴染みの場へ出掛ける支援に努めている。いきいきサロンや地域行事等への参加機会も多く、利用者の気持ちを大切に交流が持てるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室の壁にご家族が面会に来たときの写真などを貼ったり、ご家族が持参した、ご本人の昔の写真などを一緒に見ながら、お話を伺ったりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今のところご相談などはないが、あれば相談・支援の体制はある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話などから情報を集め、困難な方は、ご本人の状態に合わせて対応し、ケア者同士で情報交換し合っている (外部評価) 日頃の生活の中で利用者それぞれの思いを把握できるよう会話を大切にしている。思いを把握することが困難な状況にあっても、利用者が自己決定しやすい会話の工夫を図ったり、家族等から情報を得たり、職員間で情報を共有しながら本人が納得できる支援に努めている。把握した情報は利用者にとって生きてきた歴史であり、定期的に更新することでより具体的なケアへと活かすことができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式シートで、入居時にご家族に情報を記入して頂き、その後は、ご本人との日常の会話などの中から情報を得たり、ご家族からの話を聴き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者さんと関わりながら、できる事・できないこと、分かること・分からないことを把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケア会議で話し合いを持ち、日頃気が付いたことなど意見を出し合い、介護計画に繋げている。 (外部評価) 利用者担当制を導入しており、担当者を中心に利用者や家族等からの意向を踏まえ、担当者会議において職員間で話し合い現状に即した介護計画を作成している。生活課題への取り組み状況は日々詳細に実施記録として残しており、根拠のある効率的なモニタリングを毎月行うことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を観察しながら、申し送り時などに職員間で情報交換を行い、その情報を共有して介護に繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族のご要望に寄り、可能なことであればできる限り柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) いきいきサロンの方々との交流や町内会の行事に参加したりして、地域の方々と接する機会があり、顔なじみの関係が出来てきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 月2回かかりつけ医の往診があり、入居者の状態を把握して頂いている。発熱などの体調不良時には、かかりつけ医への受診支援している。</p> <p>(外部評価) 多くの利用者が協力医をかかりつけ医として受診している。月2回の定期的な往診のほか、看護師が配置されているため、日々の健康管理や緊急時の医療連携がスムーズに行われている。利用者がかかりつけとしていた医療機関での受診も家族の協力を得ながらの支援ができています。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 代表者が看護師として勤務しており、個々の入居者について、スタッフが相談したり、指示を受ける体制が出来ており、かかりつけ医との連携に繋げている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時にはホーム独自の情報提供書を持参しADLや入院に至る経過がわかるようにしている。又入院中も病院に伺い、状態の確認をしたりしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化しターミナルを検討する時期になれば、主治医・ご家族・職員で話し合いを行い、現状で対応できるかどうかなど判断し、ご家族の思いを共有しながら、支援することとしている。</p> <p>(外部評価) 終末期ケアの実績があり、入居時から事業所としてできること、できないことについて利用者や家族等に説明している。利用者の状態に応じてその都度利用者や家族等から思いや意向を伺うとともに、協力医療機関を交えての話し合いの機会を設けて個々の希望に沿った終末期を迎えられるよう検討している。終末期を支える職員の技術面での不安等への配慮のため、看取り開始前後には話し合いの機会を設けている。それぞれの職員の思いを大切に、不安を軽減しながら看取り介護につながる取組みができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的にAEDを使用した訓練を行い、急変時に落ち着いて行動できるように取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回避難訓練を行っている。消防士・防災士などの指導を受けながら、しているが、実際に発生した時には、スムーズにはできないであろうと不安があり、訓練をしっかり行いたい。 (外部評価) 消防署やセキュリティ管理会社の立会いで年2回の防災訓練を実施し具体的な専門的アドバイスを受けるとともに、自主防災訓練も実施している。立地等の面から注意すべき事項について、運営推進会議で地域住民と意見交換を行い、地域の防災訓練へ利用者とともに参加し、地域との協力体制を築いている。利用者の居室入口には全室防災ヘルメットを設置している。また、災害等緊急時の備蓄品として飲料水や食料、毛布等生活用品の備えがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の性格なども考慮しながら言葉かけにも注意して接している。 (外部評価) 代表者や管理者は、利用者個々の人格や健康状態に応じた優しさのある声かけを大切にしたいという思いで指導している。個人情報等についても慎重に扱われており、書類の管理についても適切に行われている。職員の声かけは利用者の思いを汲んでおり聞き取りやすく、羞恥心や不快な思いが避けられるような配慮が感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自分から要望や訴えが出来ない方が多い為、表情を観察したり、選択肢を出したりしながら感じ取れるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や食事の時間などは、その日の体調や、面会の状況などに合わせて支援している。天候に寄り、散歩などの声掛けし、希望があれば出かけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月2回、理美容師さんの訪問があり、散髪している。自分で更衣ができる方は洋服選びも自分でしている。外出時など、職員に相談された時には、アドバイスしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事時には音楽を流し、ゆっくりと食べていただくように支援している。準備やかたづけはできる方がいないため職員がしているが、一緒に話をしながら、食事を楽しむように心がけている。 (外部評価) 調理師資格を持つ専属の職員が平日の食事づくりを担当しており、利用者の希望を取り入れるため、アンケートを実施したり、誕生日にはリクエストに応じたメニューや手づくりのケーキでお祝いするなど、食事の時間が楽しみになるような工夫がみられる。利用者と職員が同じメニューで食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでおり、下膳や片付けのできる利用者を職員が、温かく見守っている光景があった。利用者の健康状態に応じて声かけや配置の工夫がされており、飲み込みが困難な利用者には、献立の工夫をしたり食べにくいものは形態を変えたりと柔軟な対応ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量はその都度、一覧表に記録している。途中で水分量のトータルをだして、一日の必要量に応じて声掛けなどし、飲んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の口腔内の状況に合わせて、歯間ブラシ・ウェッティなど必要に応じて使用している。自分で歯ブラシした後の確認も行い、磨き直しの支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の排泄パターンを記録しており、それを参考にトイレ誘導やオムツ交換の時間を考え支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>食事や排泄、水分補給等健康面に配慮をしながら、記録により排泄パターンを掴み、利用者個々のリズムに応じることができている。おむつを使用する利用者には適切な介護用品の選択を検討している。利用者の身体機能の維持やできることを奪わないケアを念頭に、トイレでの自然排泄を大切にした自立支援への取組みができている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排泄のチェック表を活用し、毎日の排便状態を確認し、その人に合った下剤を使用したり、食事面では根菜類を使った副菜を召し上がっていただいたりしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ある程度曜日や時間は設定しているが、個々の状態に応じて拒否のある方などは、排泄のタイミングで入っていただくなど工夫しながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニットごとに個別浴槽があり、1階には特浴を設置し、健康状態に応じて利用することができる。週3回の入浴を基本とし、利用者の希望や状態に応じて柔軟な対応ができており、清潔保持に努めている。入浴が苦手な利用者には無理強いすることなく、入浴日を変更したり声かけの方法や誘い方を工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>生活習慣や、体調などに合わせて、休養や午睡などの時間を取り、活動する時間と休養する時間をうまく組み合わせて1日が送れるように支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬情報はファイルに綴じてありいつでも見れる状態になっている。新しいお薬が出た時には副作用など気に向け、状態を観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別にできる事、出来ないことを把握し、全体で出来る事、個別に行うことと分けて支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望としては、なかなか難しいが、数人で散歩に出掛けたり、車で遠出をしたりしている。お花見などはご家族も参加して実施している。 (外部評価) 家族や地域住民等の協力を得て花見等の行事を行ってきているが、利用者の高齢化に伴い、全体での外出行事は困難になりつつあるので、利用者の思いに沿った外出を小規模で対応する等の支援を試みている。また、日常は気分転換に広々とした事業所敷地内や中庭での散歩等を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が管理できる方はもって頂いているが、出来ない方は、立て替え払いで買い物に行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話で話ができる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間は毎日清掃・温度管理・カーテンによる光の調整を行い快適に過ごして頂けるようにしている。居間・玄関・洗面所は花・草木を置いたり、季節感のある飾りつけをしたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 事業所の建物は築10年近く経過しているが、職員が建物の隅々まで丁寧に清掃を行うと同時に、定期的なメンテナンスも行われ、清潔に管理している様子が伺える。共用部には、通行や緊急時の妨げになる不要物はなく、安全面への配慮がみられる。また、壁には利用者の作成したクラフト作品を掲示する等温かみのある共用空間となっており、近隣の田畑の眺めと相まって利用者には懐かしく和みの空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間には、本人の椅子だけでなく、ソファを置いたり、玄関にもベンチを置くなどし、入居者さんが思い思いに過ごせるような居場所作りをしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は入居者さん一人一人の好みに合わせ使い慣れた物をもって頂いたり写真や季節感のあるものを置くなど工夫している。</p> <p>(外部評価) エアコン、緊急呼び出し装置、電動ベッド、ロッカー、チェスト等が整備されており、日常過ごすには不自由さは感じない。利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう馴染みのものや愛着あるものの持ち込みを勧めたり、仏壇や家族写真等を利用者がそれぞれ自由に配置して使用することができている。利用者の健康状態に応じ、畳を敷いたり工夫等安全面に考慮しながらの対応ができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 入居者さんが自立した生活が送れるよう、トイレ、浴室、廊下に手すりをつけ、立位や歩行が自分のできるように工夫している。</p>	